

# エコアクション21 環境経営レポート

株式会社ミヨシ

[適用期間] 2024年4月1日～2025年3月31日

発行 2025年6月3日

作成 村越 真織

1. 組織概要
2. 対象範囲
3. 環境経営方針
4. 環境活動実施体制
5. 環境経営目標
6. 環境経営計画
7. 環境経営目標の達成状況
8. 環境経営計画の実施状況及びその評価結果
9. 来期の環境経営目標・環境経営計画
10. 環境関連法規等の順守状況の確認  
及び評価の結果ならびに違反訴訟等の有無
11. 代表者による全体の評価と見直しの結果

弊社は創業以来お客様の多様な「発想をカタチに」にお応えすべく邁進してまいりました。リアルタイムで進歩する技術革新の中、知識と実績に裏打ちされた自社一貫体制による最先端の技術力で最大限の対応に取り組んでおります。

【社名】	株式会社ミヨシ
【代表者名】	代表取締役 杉山耕治
【所在地】	〒124-0025 東京都葛飾区西新小岩5-19-14 Tel 03-3692-0662 Fax 03-3696-9557
【環境管理責任者】	村越真織  〈E-mail〉 gad@miyoshi-mf.co.jp 〈URL〉 <a href="https://www.miyoshi-mf.co.jp">https://www.miyoshi-mf.co.jp</a>
【事業内容】	(1)プラスチック製品の試作 (2) 射出成形金型の製作 (3) 射出成形加工 (4) 小ロットプラスチック製品の製作・加工 (5) 治具、機械部品の製作 (6)その他
【事業規模】	従業員数 20名（うちパート8人）  売上高 153,669千円（2024年4月～2025年3月）  床面積 404.1㎡

## 2. 対象範囲

【エコアクション2.1対象範囲】適用は全社・全従業員とします。

ミヨシが目指す姿は社会から必要とされ続ける会社です。

100年後もミヨシはものづくりで人々の生活を豊かにし、社会の役に立つ会社であり続けたいと考えています。

100年後の社会がどのようなになっているかは想像できなくても、どのような社会であってほしいかは考えることができます。

私たちは、未来の人類と地球上の生物にとって、持続的に発展できる社会であってほしいと考えています。

持続的に発展できる社会のためにはものづくりの過程で生じるエネルギーの削減や、作られたものがすぐに捨てられない、ライフサイクルが長い価値の高いものを作る必要があると考えています。

私たちはものづくりの過程で生じる環境負荷を抑えて、かつ、技術力を高めて人の役に立つものづくりを行うことを目指し、環境経営の継続的改善に努めます。

1. 自社において環境負荷低減の目標を作成し実行、持続する。
2. 環境に関する法規を順守し地域社会とのより良い調和を目指して行動する。
3. 環境目標として以下の5項目を重要項目とする。
  - ① 電気、化石燃料を適切に使用し、エネルギーの無駄な使用を抑えCO2排出量の削減に努める。
  - ② 生産活動における廃棄物の分別を実施しリサイクルを励行する。
  - ③ 水資源を保つ為に一人一人が節水を心がける。
  - ④ 化学物質の適切な使用と管理を行う。
  - ⑤ 環境負荷低減に関する自社の商品やサービスの販売促進を実施する。
4. 環境経営方針は従業員に周知し一丸となって遂行する。

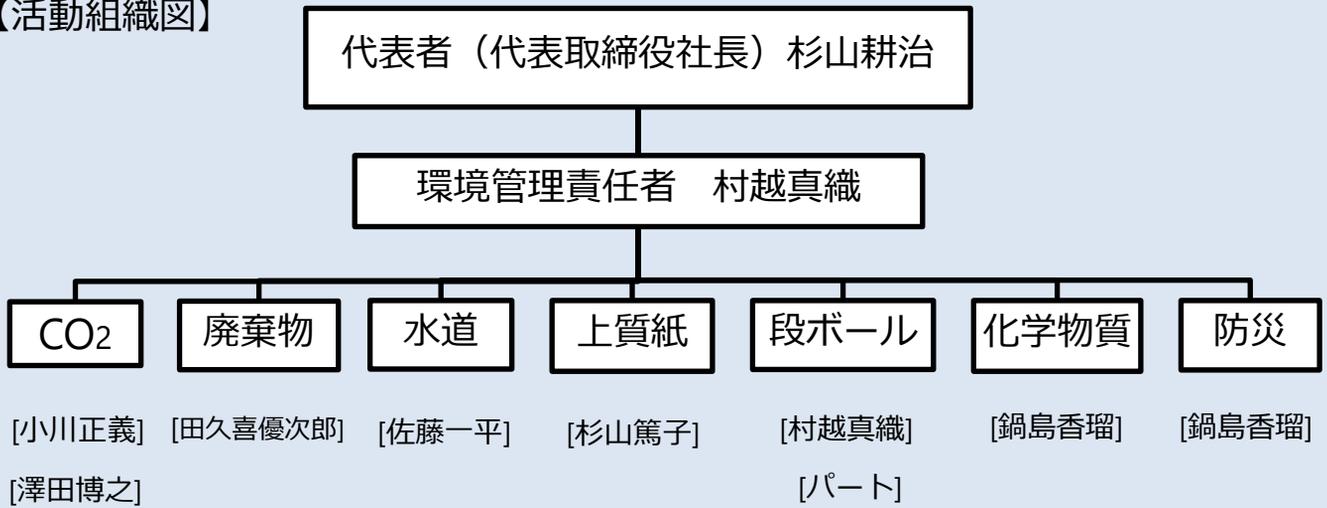
2006年11月制定

2018年 4月改定

株式会社ミヨシ

代表取締役 杉山耕治

【活動組織図】



	役割・責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針の策定・見直し及び全従業員への周知</li> <li>環境経営システムの実施及び管理に必要な設備・費用・人・情報を用意</li> <li>環境管理責任者を任命</li> <li>EA 2 1 の活動内容に関するコメント・評価・指示</li> <li>代表者による全体の評価と見直しの実施</li> <li>経営における課題とチャンスを整理し明確にする</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムを構築・運用する（代表者からEA 2 1 の権限を委任）</li> <li>実施体制の構築（組織図及び役割・責任・権限）</li> <li>環境目標・環境活動実施計画書と実績表の作成</li> <li>教育・訓練の実施を指示</li> <li>環境上の緊急事態への準備・対応</li> <li>EA 2 1 の活動内容の記録と管理</li> <li>環境活動レポートの作成</li> <li>環境活動の取り組み結果を代表者へ報告</li> <li>EA 2 1 活動の推進</li> <li>環境への負荷及び取組チェックを実施</li> <li>環境関連法規等の取りまとめ表作成と遵守評価実施</li> <li>環境関連文書・記録の管理</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>各々担当した環境項目について年間の活動内容の詳細を決める</li> <li>各担当ごとに必要な集計・グラフ化と全従業員への回覧</li> <li>活動内容の進捗状況はコミュニケーションツール「slack」にて報告</li> <li>年間の集計と次年度への引き継ぎ事項の報告</li> </ul>

## 【今期の目標数値】 〈2024年度〉

項目	目標
CO2排出量の削減 ●電力使用量 ●灯油 ●ガソリン ※1	前年度(2023年度)実績値 より-2% ※2
廃棄物削減	前年度(2023年度)実績値 より-2%
ダンボール再利用	発送件数に対し再利用率 35%
水資源	前年度(2023年度)実績値 より-1%
化学物質	適切な使用及び管理
自社の商品・サービスの提案促進	環境負荷の削減のための弊社規格の交換ダイセットの提案促進

※1 ガソリンは営業活動に使用するため、目標数値の設定はせず、数値のみの管理とする

※2 当社の電気によるCO2排出係数は0.457(kg-CO2/kWh)〔東京電力エナジーパートナー〕

## 【中長期目標】 〈2024年～2028年度まで〉

項目	基準値	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
CO2排出量の削減	2023年度実績値	-2%	前年度実績より-2%	前年度実績より-2%	前年度実績より-2%	前年度実績より-2%
廃棄物削減	2023年度実績値	-2%	前年度実績より-2%	前年度実績より-2%	前年度実績より-2%	前年度実績より-2%
ダンボール再使用率	発送件数に対して	35%	35%	35%	35%	35%
水資源	2023年度実績値	-1%	前年度実績より-1%	前年度実績より-1%	前年度実績より-1%	前年度実績より-1%
化学物質	—	適切な使用及び管理				
自社の製品・サービスの提案促進	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境負荷低減のため、弊社規格の交換ダイセットの提案促進</li> <li>・ECサイトでの自社製品の販売</li> </ul>				

### CO<sub>2</sub>排出量の削減

#### 【電気使用量】

活動内容	詳細
◆電気使用量調査	月ごとの使用量をグラフ化し資料を共有する
◆エネマネシステムの活用	ピーク電力の管理を行い、コスト削減につなげる
◆エアコンのメンテナンス	夏前、年末にエアコンのフィルタ清掃を行う
◆エアリークチェック	工場のエアーガンのエアリークチェックと記録表の作成
◆エアコン使用基準の確認	場所ごとのエアコンの使用基準に基づく使用と確認
◆断熱対策を行う	断熱が必要な場所に対策を行う（屋根・外壁の遮熱塗装工事）

#### 【灯油】

活動内容	詳細
◆灯油使用量の削減	エアコンをメインで使用し、ストーブはスポット的に使用する
◆灯油購入量の削減	灯油は必要分のみ購入する

#### 【ガソリン】

活動内容	詳細
◆エコドライブの推進	エコドライブの呼びかけを行う
◆燃費の管理	可能な限り燃費の管理をする

### 廃棄物削減

#### 【ごみの排出量】

活動内容	詳細
◆廃棄物量の集計	種類ごとの廃棄物量の集計と報告書の作成・共有
◆廃棄物削減の工夫	無駄の無い材料の発注を行う
	粉碎機を導入し樹脂材料の再利用を行い廃プラの削減を行う
	技術の向上により不良率を下げ材料の無駄を無くす

#### 【ダンボール】

活動内容	詳細
◆再使用率の調査	ダンボールの再利用数の記録と集計（送り状を利用した効率化）
◆エコシールの活用	再利用ダンボールにはエコシールを貼付する
◆再利用の呼びかけ	再利用の呼びかけを行う
◆実施状況の確認	発送前にシールの貼り忘れがないかチェックする

## 廃棄物削減

### 【上質紙】

活動内容	詳細
◆上質紙の分別と集計	再利用率を上げるために分別をしっかり行い、集計をする
◆FAX印刷の削減	印刷前に各担当に確認し、必要なものだけ印刷をする
◆電子化の推進	紙での印刷物削減のため、電子化をすすめる
◆用紙サイズ変更の検討	上質紙の使用量を減らすために用紙サイズの見直しを行う
◆印刷ミスを減らす	印刷前に内容・設定の確認を促す呼びかけを行う

## 水資源

### 【水道使用量】

活動内容	詳細
◆節水の呼びかけ	継続して節水の呼びかけを行い、無駄な使用をなくす
◆水の使用量の調査	毎日の水道メーターの記録による使用量チェック
◆成形機チラーの活用	水道使用量を減らすために成形機チラーを活用する

## 化学物質

活動内容	詳細
◆安全な管理	保管方法の確認を行い改善点があれば実施する
◆使用量の調査	記録用紙の見直しと可能な限り使用量の調査を行う

## 自社の商品・サービスの提案促進

活動内容	詳細
◆交換ダイセットの提案促進	材料の節約と保管スペースの縮小のため可能な限り提案する
◆自社製品の開発と販売	環境に配慮した材料を使用した製品の開発と販売の推進

## 防災

活動内容	詳細
◆防災訓練の実施	必要な防災訓練の検討と実施
◆社内の安全チェック	社内に危険箇所が無いかの確認と対策を行う

## 2024度 環境経営目標の実績

集計の結果、今期の実績は以下の通りとなった。  
 (※売上額、従業員数ともに前年比約**120%**)

項目	単位	基準値 (2023年度)	目標[%]	目標値	実績値	前年比[%]	目標比[%]
電力量	kWh	96,679.0	-2%	94,745.4	105094.0	108%	110%
	CO2-kg	44,182.3		43,298.7	48028.0		
灯油	L	108.0	—	0.0	108.0	—	—
	CO2-kg	268.9		0.0	268.9		
CO2目標分(合計)	CO2-kg	44,451.2	—	43,298.7	48,296.9	—	—
ガソリン	L	552.0	—	—	503.4	-12%	—
	CO2-kg	1,280.6		—	1,167.9		
CO2排出(合計)	CO2-kg	45,731.8	—	—	49464.7	<b>108%</b>	<b>—</b>

一般廃棄物	kg	1,368.6	-2%	1,271.2	1477.4	108%	116%
産業廃棄物	kg	4,453.2	-2%	3,840.0	3291.2	73%	85%
廃棄物(合計)	kg	5,821.8	—	5,111.2	4768.6	<b>81%</b>	<b>93%</b>

段ボール (再利用)	件	〈発送件数〉 651	35%	〈目標〉 227	〈実績〉 56	<b>再利用率 9%</b>
段ボール (専用コンパクト)	件	133	—	—	—	—

水資源	m <sup>3</sup>	292.0	-1%	289.1	276.5	<b>95%</b>	<b>96%</b>
-----	----------------	-------	-----	-------	-------	------------	------------

化学物質	適量の使用および適切な管理を行った
------	-------------------

自社の商品・サービスの提案推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金型製作受注のうち<b>86%</b>は(交換ダイセット)で対応した</li> <li>・ECサイトでの自社製品の販売 →前年度と比較し<b>2.5倍</b>、販売開始した2022年度と比較すると<b>約6.5倍</b>の売上となった</li> </ul>
-----------------	--

- ◆基準値・・・前年度(2023年度)の実績値
- ◆ガソリンは、営業活動に使用するため目標数値の設定はなし
- ◆当社の電気によるCO2排出係数は、**0.457(kg-CO2/kWh)** [東京電力]
- ◆段ボールは、サンプル品発送時に使用する専用のコンパクト箱の発送件数も参考値として記載

◆2024年度 社内の記録 〈今回の会社全体、または環境に関わる活動一覧〉

アイコン



日付	項目	内容	内容・実施結果・全体への周知内容ど
<b>2024年</b>			
5/17		空圧式小型射出成形機の導入	再生材を使用した成形を効率良く行うための機会
5/28		粉碎機の導入	プラスチックの再利用化に向けた導入
6/3		樹脂の粉碎材の再利用開始	年間の粉碎材の利用量の集計開始
6/3		エアリークチェック	工場内のエアークンのエアリークチェック
6/11		ゼロエミッション実現に向けた活動について	専門家による省エネ診断やアドバイスを受け、省エネ活動をすすめる方針の展開
6/17		〃 ハンズオン支援の決定	ゼロエミッション実現に向けた活動の開始
6/20		小型射出成形機の見学受入開始	再利用材料の開発を行企業へ向けて
6/26		レーザー彫刻機の導入	再生材を使用した成形品の負荷価値を上げるための導入
7/5		金属くずの有価物回収	2024年度1回目
7/8		日よけ設置	猛暑日
7/17		エコアクション2.1 現地審査	今期の計画の共有
7/29		エネマネシステムの機器交換	電気使用量、デマント数値測定機器の交換
7/30		1階工場エアコンの使用ルール確認	冷房の設定温度と実際の室温の調査開始
9/5		使用電力の測定機の導入検討	機械ごとの使用電力調査のための検討
9/30		社屋外壁・屋根の遮熱塗装工事	高反射率塗装による断熱対策
11/5		水使用量の増加による調査	毎日のメーター調査により通常よりも高い使用量が発覚したため
11/18		アルミの切粉の持込	2024年度1回目
11/29		アルミの切粉の持込	2024年度2回目
12/25		金属くずの有価物回収	2024年度2回目
<b>2025年</b>			
1/14		ゼロエミッション実現に向けた助成金申請	来期の省エネ活動計画に必要な設備、機械導入のため
3/1		〃 交付決定	設備導入計画に基づき動き始める
3/27		防災訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社内の危険箇所の確認</li> <li>・ ハザードマップ、避難場所の確認</li> </ul>

## CO2排出量の削減 ◆電気使用量

### ◆電気使用量の調査

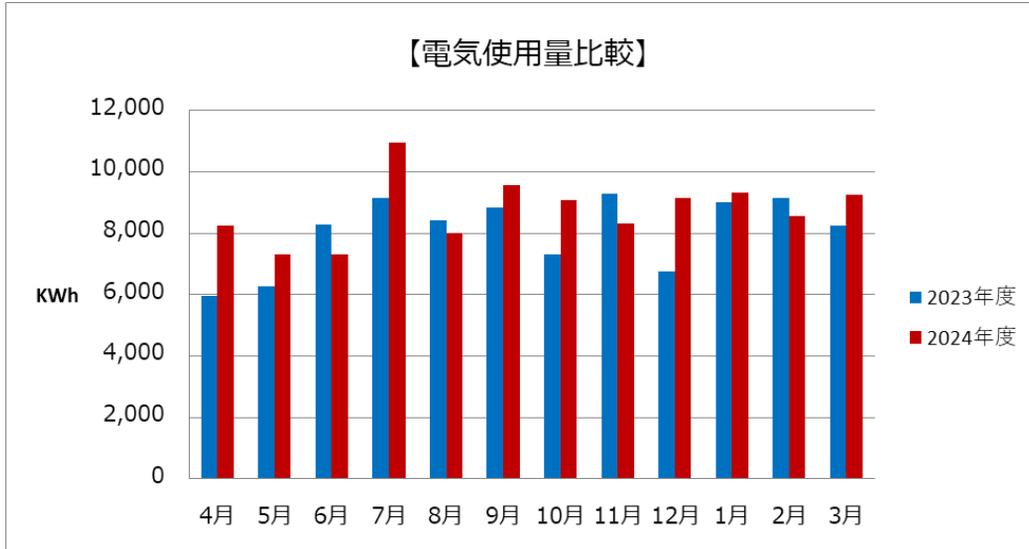
今期も引き続き前年度との電気使用量の比較グラフの共有を行った。(グラフ1)

前年比108%の使用量となった。

使用量は主に機械の稼働率の影響が大きい。エアコンの適切な使用方法について確認と見直しを行いながら、効率的な使用で省エネにつなげたい。

来期は機械ごとの電量使用量を測定して使用電力の可視化を行い、設備更新の参考にしたいと考えている。

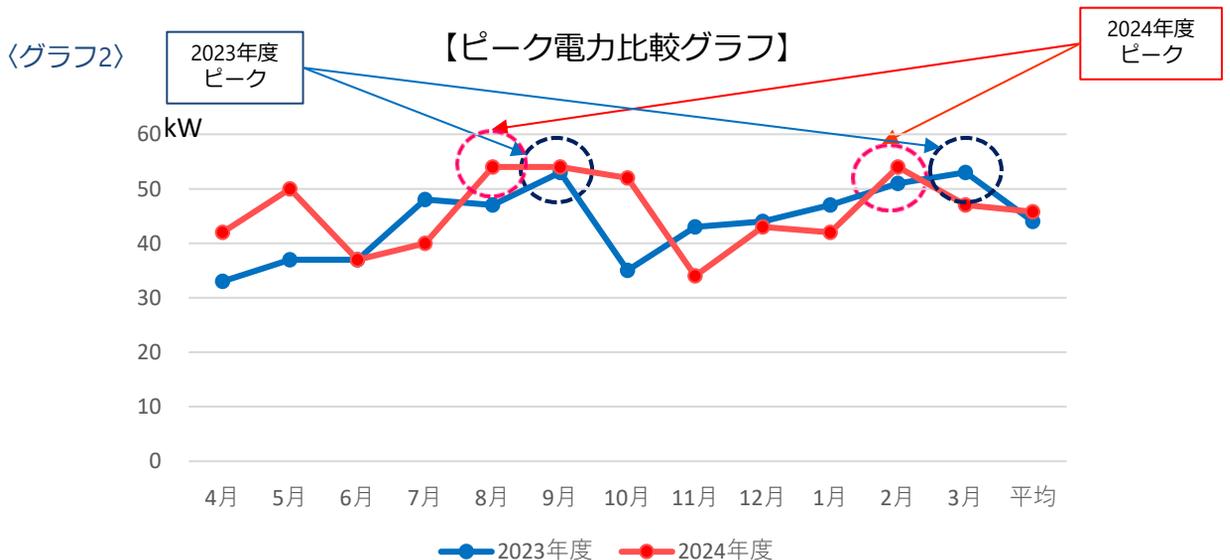
〈グラフ1〉



### ◆エネマネシステムの活用

電力会社のエネマネシステムを利用し、ピーク電力の測定値の確認を行った。(グラフ2)

エアコンを使用する季節はタイマーセットの時間をずらしたり、長期休暇の後などは機械の立ち上げ点検を行う際の電源を入れる時間にも注意し対策を行った。来期も機械・エアコンの稼働状況を事前に確認し共有しながら管理を行っていく。





## ◆断熱対策

### ■夏季の日よけ対策

コンプレッサー室や、工場への夏の日差しを避けるため、前年度より日よけ資材を一新し、機能性と統一感を兼ね備えたものに更新した。（写真①）

### ■工場内部での断熱対策

- ・外部へ接する通路からの寒気を防ぐため、エアパッキンを設置し対策を行っている。（写真②）
- ・大きなシャッター部分に布を設置し断熱効率を上げる対策を行っている。（写真③）



①工場内部への日差しを防ぐ対策



②エアパッキンでの断熱対策



③工場シャッター内側の布設置

### ■社屋2階の窓の断熱対策

2階事務所の窓の内側に透明ビニールを貼付して寒さ対策を実施し設置前後の効果を調査。対策無しの場合とビニール有りの場合で室温に約4℃の差が出ることが分かった。この結果を基に、来期は2階の窓に二重サッシの導入を行うことを前向きに検討することになった。

ビニールを設置した際の室温 → 18.5℃

設置していない窓際の室温 → 14.3℃



### ■外壁・屋根の遮熱塗装

今期の断熱対策でも大きな取組として、2024年の9月に工場の屋根と外壁の「高反射率塗装」を実施した。

特殊顔料により光線を反射し吸収する熱量を減少させることで、省エネ、ヒートアイランド対策、節電にもつながるとのことで、省エネ効果に期待したい。

※期待される効果・・・室内温度で最大約3℃の温度差（メーカーの比較による）



外壁 遮熱塗装前



外壁 遮熱塗装前



屋根 遮熱塗装前



屋根 遮熱塗装後

### CO<sub>2</sub>排出量の削減 ◆灯油使用量の削減

#### ◆灯油購入量と使用量の削減

今期もエアコンの暖房をメインに使用し、必要な分だけ灯油の購入し、スポット使用を心がけた。今後も作業効率向上のために作業環境を整えながら、無理の無い範囲で削減していく。

### CO<sub>2</sub>排出量の削減 ◆ガソリン

#### ◆エコドライブの推進

営業活動でに必要なため使用量の目標は定めていないが、エコドライブについての意識が薄れないよう、運転席への掲示や呼びかけを行っている。

#### ◆燃費の管理

給油時の記録シートにて燃費の確認を行った。今後も可能な限り燃費管理を行っていく。

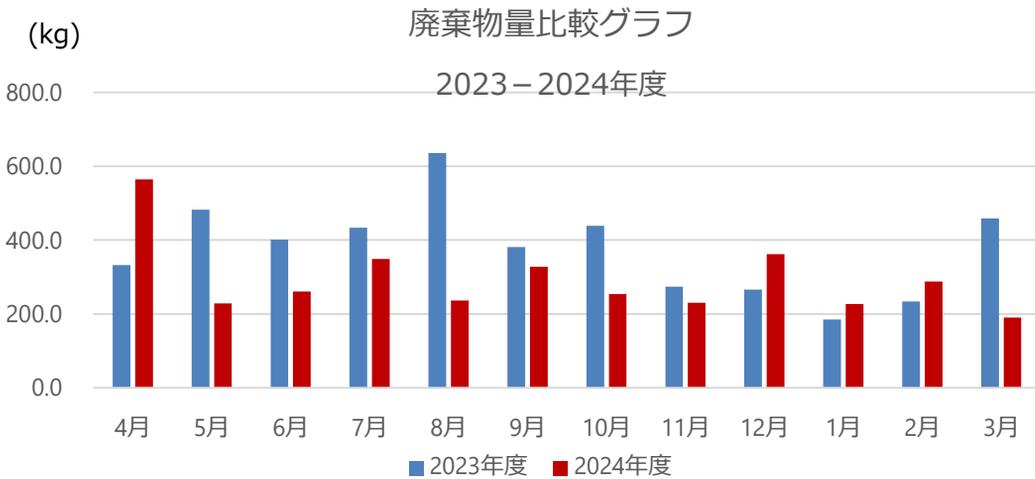
廃棄物削減 ◆ 廃棄物量の集計

集計の結果、今期は産業廃棄物の廃棄量が前年度の83%まで減少した。  
 (※売上額、従業員数ともに前年比約120%)

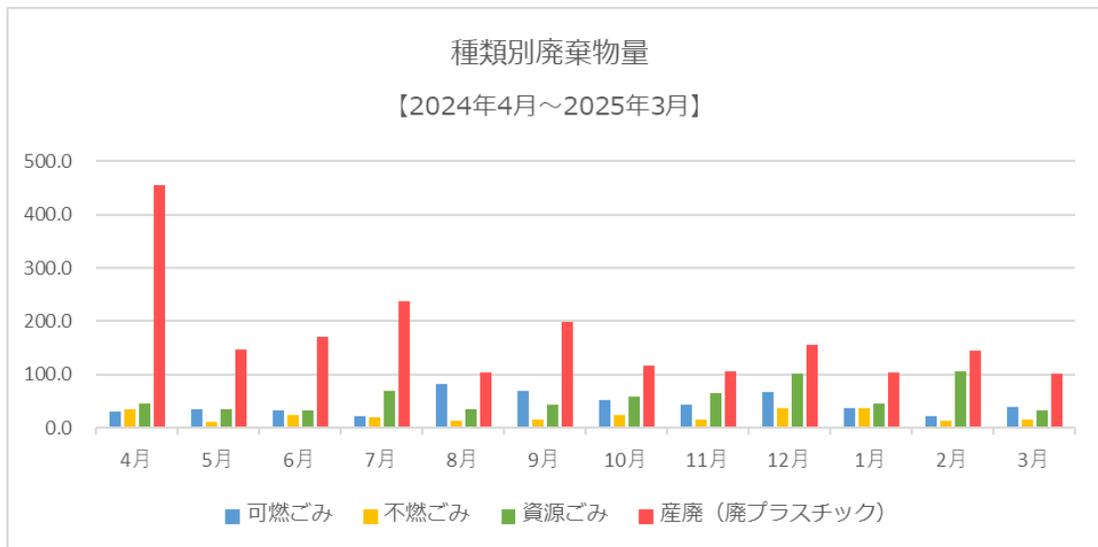
〔廃棄物の集計方法〕 ごみの収集日に、場所、種類ごとに自分たちで測定し、手書きの表に記入。月ごとに担当が集計しグラフ化する。(グラフ3・4)

〔廃棄物量報告書〕 前期との比較や種類別のグラフを共有し、廃棄物削減の意識を高めている。

〈グラフ3〉



〈グラフ4〉



## 廃棄物削減 ◆ 廃棄物削減の工夫

## ◆ 産業廃棄物の削減

産業廃棄物の大部分は前頁の〈グラフ4〉の通り、成形作業により出る廃プラスチックであるが、弊社は主に試作開発、研究に係る案件が多く、プラスチック材料の再利用が不可の場合もあるため廃棄量が増える傾向にある。

取引先からの支給材料は使用後なるべく長期保管をせず、保管や返却の確認を早めに行い廃棄量を減らせるようにしている。

今期は、長年の課題であった、成形時に発生する製品以外の部分(スプルー・ランナー)を再利用するための粉砕機を導入した。(2024年5月9日)

粉砕材は成形時にバージン材に配合して再利用した。混合した成形は種類も限られてはいるが、量産品で材料を弊社で調達しているものに関しては今後も積極的に再利用をすすめていきたい。

粉砕材について、2024年6月から2025年の3月末までの10ヶ月間の結果は以下の通り。

来期は品質管理、成形に関する技術力を上げ、成形品の不良率を下げ廃プラスチック量を減らせるようにする。

## 〈今期の実績〉 【プラスチック材料再利用について】

■ 粉砕した量・・・約250kg

■ 粉砕材を使用して再利用した量・・・約125kg



粉砕機



粉砕前のスプルー



粉砕後

## 廃棄物削減 ◆ アルミの切粉の有価物回収

## ◆ アルミの切粉を有価物回収へ

金型製作の過程でアルミを加工した際に出る切粉の処分方法には、前期より廃棄物ではなく有価物回収として処理している。

## 〈今期の実績〉

【有価物として処理したアルミ総重量】 180kg

【回数】 2回

## 廃棄物削減 ◆ 廃棄物削減の工夫

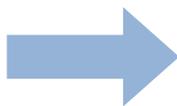
## ◆ アルミの切粉を有価物回収へ

金型製作の過程でアルミを加工した際に出る切粉の処分方法について、廃棄量の削減のため、前期より有価物回収へ処理の仕方を変更した。

〈今期の実績〉

【有価物として処理したアルミ総重量】 180kg 【回数】 2回

## 廃棄物削減 ◆ ダンボール



再利用ダンボールへ  
貼付



## ◆ 再利用マーク（エコマーク）の活用

継続して取り組んでいる発送ダンボールの再利用シール貼付について、目標は**35%**としているが、量産品では梱包仕様が決まっているため再利用ができない場合も多く、可能な範囲で実施している。前期の30%から今期は**9%**と、再利用率は低下した。

来期は再度使用の呼びかけを行い少しでも再利用率を上げられるようにしたい。

サンプル品の発送の際や加工依頼時などは、可能な限り部品購入時のダンボールを再利用したり、コンパクトな資材を利用して緩衝材の使用を減らす工夫を行っている。

また、今期は、従業員が自主的に各々の家庭から出た緩衝材を持ち寄ることが増え、無駄な緩衝材の使用を減らすことが出来た。再利用の意識が高まったと感じている。

取組を始めてから**6年目**となり、お客様から送られてくる品物にも弊社で貼付したエコシール付の段ボールを見かけることが増えている。

今後もこの取り組みが広がるように取組を続けていきたい。

## 【再利用シールを使うメリット】

- ①社内でのデザイン案から全員の投票で決めた親しみのあるマークで、楽しく取り組める。
- ②毎月末に各大きさごとのシールの残りの枚数を数えることで集計時間の大幅な削減ができる。
- ③あえて社名を入れず、発送先のお客様に更に再利用をしてもらいやすくすることで、エコ活動の拡散につながる。

### 廃棄物削減 ◆上質紙の削減

- ◆上質紙の再利用については、徹底した裏紙の使用が出来た。  
今期の裏紙使用は**A4用紙で約3483枚分**（月平均290枚を再利用）  
基本的な印刷を裏紙専用カセット設定している効果が高いと感じる。
- ◆社内書類や掲示物など、可能なものはA4サイズからA5サイズへと変更し、上質紙の使用量を減らせるようにしている。
- ◆FAX受信時はなるべく上質紙を使用しないよう、各担当に内容の確認をしてから必要な分のみ印刷し、画面確認のみで対応できる場合は印刷をしない取組を行っている。  
また、今期は電子帳簿保存法の開始によりメール添付での文書のやりとりが増えたこともあり、紙での印刷や郵送も減少した。今期印刷せずに削減した枚数は**A4用紙で351枚分**。
- ◆印刷前の確認することで印刷ミス無くすように呼びかけを行った。

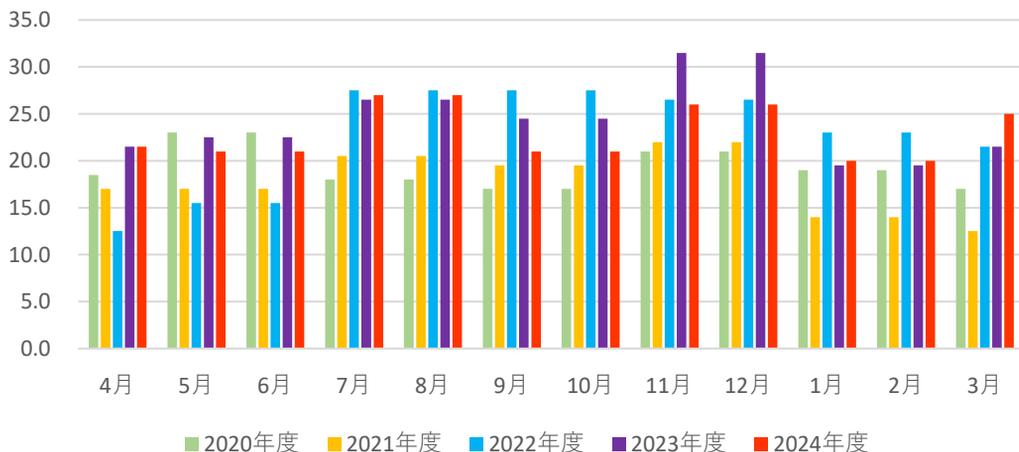
### 水資源 ◆水道使用量の調査

今期も毎日朝と夜に水道メーターでの実測値の記録をとり、請求明細との照合を行った。2022年10月に使用量が著しく多い日があったため社内で調査した結果、原因は金型冷却の際に蛇口のひねり過ぎによる使用量の増加であることが分かった。  
対策として、今回のケースのように直接水道からの水で金型を冷やす際は、流量計を使用して水量の調節を行うことにした。  
また、無駄な使用を減らすため節水の呼びかけを行っている。

〈グラフ5〉

水道使用量比較グラフ

2020 - 2024年度



2017年7月の成形機用チラー(空冷式冷水循環装置)の導入以後、水の使用量が減少し毎月20m<sup>3</sup>~25m<sup>3</sup>程度で安定している(グラフ5)

チラーは3台の射出成型機すべて金型を冷やす際に活用している。

また、成形機ホッパー下の温度の最適化を材料ごとに設定し、作業の効率化を行っている。

今後も継続して活動を続ける。

## 化学物質

薬品棚の確認をし安全に管理を行っている。使用の際は薬品使用メモへの記入をする。化学物質管理表を作成し取り扱い品の確認と見直しを行った。今後も新しいものを購入した際はSDSの取得と管理を行う。

※当社は洗浄剤と防錆剤で少量の薬品(PRTR対象外)を使用をしています。

## 自社の商品・サービスの提案推進

### ◆交換ダイセットについて

金型作成時、製品に関わる部分のみを交換し、共用出来る部分は共用する仕組み。

必要部分のみの製作となるので工期の短縮が図れ、材料も節約できる。

保管場所も少なくできるというメリットがあり、環境負荷低減にもなるため、可能な限り提案し推進している。今期の受注金型のうち**86%**は交換ダイセットで作製した。

### ◆自社製品の開発・販売

環境に配慮した材料を使用した自社製品の販売を継続して行っている。

中でも小型の射出成形機用の金型の受注も増えているため、材料の小分け販売の売上も順調に伸びていて、サイト全体で前期よりも**売上げが約2.5倍**となった。(本確定に販売を開始した2022年と比較すると約6.5倍)

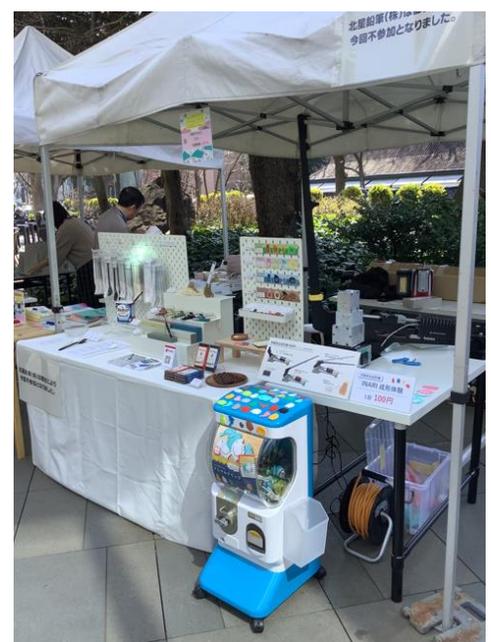
また、今期は展示会で販売する際のブース作りに力を入れ、手に取りやすい展示と販売を心掛けた。今後も環境に配慮した素材で長く使っていただけるもの、世の中にはないものを全員で話し合いながら製作を行い、私たちの活動が環境負荷低減につながり、地球環境の保全に少しでも役立つきっかけとなるような活動を続けていきたい。

#### 【今期の展示会・販売イベント参加実績】

- 「雑貨EXPO」 (2024年7月3日～7月5日)
- 「明日見世」 (2024年9月18日～12月10日)
- 「町工場見本市」 (2025年1月29日～31日)
- 「したまち小粋マルシェ」 (2025年3月22日～23日)



「町工場見本市」での展示の様子



「したまち小粋マルシェ」での展示の様子

その他の活動 ◆防災

◆防災訓練の実施

①社内の危険は場所の調査

地震などの災害が起きた際に社内の危険な場所、安全な場所はどこかの調査を行った。  
(5つのグループに分かれて実施)  
合わせて消火器の設置場所も確認した。



危険な場所・安全な場所の調査の様子

②会社周辺のハザードマップ・避難場所の確認

防災担当が会社周辺の防災に関わる情報(水害・液状化、地域危険度、避難手順、避難場所)をまとめ、プレゼンテーションを行って全員で共有した。



プレゼンテーションの様子



資料の一部 (洪水マップ)



資料の一部 (防災総合マップ)

③備蓄品の確認

社内の備蓄品の確認を行った。不足するものは購入予定。

- ※保管場所・・・中2階
- ◆簡易トイレ：サニタクリーン便袋20枚  
ポータブルトイレ用50セット
- ◆飲料：2L×1本(2029.6まで)  
2L×6本(2030.2.14まで)  
500ml×4本(2026.2.20まで)
- ◆口ウソク(太)×8本

現在の備蓄品内容



備蓄品写真

## その他の活動 ◆地域とのコミュニケーション

## ◆清掃活動

週ごとに社内・社外を含めた各場所の清掃当番を決め、近隣の道路や駐車場の清掃を毎日行っている。

綺麗な環境を保ち、地域住民の方との挨拶や会話など、積極的にコミュニケーションをとりながら今後も良好な関係を築いていけるように活動を継続していく。

## ◆かつしかライブファクトリー

2019年から毎年秋に、葛飾区の製造業と協力し、ものづくり文化を知ってもらうためのイベントとしてオープンファクトリー、ワークショップを開催している。

6回目となる今回は2024年10月26日に葛飾区の12社の企業でイベントを実施。

弊社では参加いただいた方に「再利用プラスチックの成形体験」をしていただいた。今期導入した粉砕機を使用してペットボトルのキャップを粉砕してプラスチック材料に混ぜて成形を行い、再利用ならではのオリジナルの成形体験に大変好評をいただいた。

今後も『捨てられないものづくり』『人の役に立つものづくり』という企業理念のもと、楽しく、環境に配慮した製品製作などの企画でイベントを行っていきたい。



ペットボトルキャップの粉砕



粉砕後の材料



完成した成形品



ワークショップ風景

## その他の活動 ◆社内での環境コミュニケーション

## ◆コミュニケーションツール「slack」を使用した環境活動の情報共有

エコアクション21の活動の社内の情報伝達方法としてslackの活用をしている。(2022年6月～)タイムリーに情報が共有できること、紙での回覧よりをしないことで資源の使用量削減にもなっている。

課題解決のための対策を実施するまでのスピードも上がり、「全員で取り組む省エネ活動」の推進に役立てることが出来た。

## 〈今期の投稿の一例〉



2024年4月30日(火)

## 【廃棄物】↓

4月の廃棄物報告書です。↓

3月に続き、4月も成形材料廃棄により廃プラが多いです。↓

ご確認よろしくお願いたします。(朝のごみ捨て時に記入する廃棄物集計表について、ひとつの欄にいくつも数値があり解読できないことがあるため、丸をするなど合計を分かりやすく示していただけると助かります。)



6月11日(火)

6/3(月)の機械点検時にエアリークチェックを行ったので報告します。↓

記録表を作成したので確認の方よろしくお願いたします。←

<エコアクション担当別1\_電気・灯油・ガソリン\_エアリークチェック>←



11月5日

10/25夜から10/28夜にかけて、使用した水の量が5.8㎡となっています。↓

お風呂一杯分(200ℓ)が約0.2㎡です。異常な数値です。↓

10/28夜~10/29夕方にかけては0.7㎡となっているので漏水ではなさそうです。←



このスレッドに返信しました↓

蛇口をひねり過ぎないよう気を付けます。成形機への水は、蛇口から直接流しているのが230t金型冷却のみのため、1か所に流量計を取り付ければ水量を規定できると思います。↓

(普段230t金型冷却はチラーから流しています。該当金型は冷却管が多く水道からも流しています)←

## 【来期の目標数値】 〈2025年度〉

項目	目標
CO2排出量の削減 ●電力使用量 ●灯油 (●ガソリン※1)	2024年度実績値 より-2% ※2
廃棄物削減	2024年度実績値 より-2%
ダンボール再利用率	発送件数に対して35%
水資源	2024年度実績値 より-1%
化学物質	適切な使用及び管理
自社の商品・サービスの提案促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境負荷の削減のための弊社規格の交換ダイセットの提案促進</li> <li>・ECサイトでの自社製品の開発と販売</li> </ul>

## 【来期の活動計画】 〈2025年度〉 (◎は特に省エネ効果が期待できる項目)

### ◆CO2排出量の削減

#### 【電気使用量】

- ◎断熱対策 →社屋2階の二重サッシ導入
- ◎空調設備 →省エネ性の高い機器への更新の検討
  - ・電力計導入による機械ごとの使用電力の調査
  - ・エネマネシステムを活用したピーク電力の管理
  - ・エアコン使用基準の確認と見直しの継続
  - ・エアーガンのエアリークチェックによる無駄な電力の削減 (6月に実施予定)

#### 【灯油】

- ・ストーブのスポット使用
- ・必要分のみ少量ずつの購入

#### 【ガソリン】

- ・エコドライブの周知と徹底
- ・可能な限り燃費チェックを行う

### ◆廃棄物削減

#### 【ゴミの排出量】

- ・ごみの排出量の集計と情報共有
- ・廃プラスチックの削減の工夫 →粉砕機の使用の推進
- ・品質管理と技術力をあげることによる不良率の低下を目指す

#### 【ダンボール再利用】

- ・エコシールの活用
- ・資材置き場の整理と工夫、定期的な再利用の呼びかけ

#### 【上質紙再利用】

- ・上質紙の分別と再利用の徹底
- ・印刷ミスを減らすための対策と呼びかけ
- ・データ管理の推進による紙の使用の削減

- ◆水資源
  - ・水道メーターによる使用量の確認
  - ・成形機チラーの有効活用
  
- ◆化学物質
  - ・安全な管理と使用量の調査
  - ・購入表の管理
  
- ◆防災
  - ・避難訓練の実施
  - ・社内の危険箇所の確認と対策
  
- ◆その他の活動
  - 〈地域とのコミュニケーション〉
  - ・清掃活動
  - ・オープンファクトリーを行い自社事業を知ってもらう機会を設ける
  - ・ワークショップ・・・再利用プラスチックなど環境に配慮した素材でのものづくり体験を通して環境活動を広める

## 10. 環境関連法規等の順守状況の確認及び評価の結果ならびに違反訴訟等の有無

適合環境等法令	該当設備	順守状況
騒音規制法	射出成形機 3台 コンプレッサー 1台	届出
振動規制法	射出成形機 3台 コンプレッサー 1台	届出
廃棄物処理法	廃プラスチック 廃金属 廃油	委託契約
消防法（少量危険物）	放電加工機（加工液） 第4類2石	少量危険物貯蔵掲示
フロン排出抑制法	業務用エアコン11台	3ヶ月ごとに簡易点検

該当される関連法規において確認した結果、違反事項はありませんでした。  
また、過去3年間での訴訟、行政処分、関係当局等の違反はございません。

**◆電気の使用について****【良かったとこと】**

昨年設置したシャッター前のカーテンによって作業員たちからは明らかに体感温度が変わったと、冬夏いずれも断熱効果があることを実感している。

断熱効率向上のために社屋外に遮熱塗料を施工した。遮熱塗料は色を明るい色にしたことも相乗効果で、暑い時期は熱がそれほど高く感じなかった。

**【課題、改善点】**

遮熱塗料やシャッター前カーテンなどの施工は実施した結果熱効率は上昇したが、まだ熱の流入があると感じている。

来年度は断熱効率を上げるための二重サッシを施工したい。

また、昨年度も検討したが来期もソーラーパネルの設置や蓄電池の導入を検討していきたい。

**◆廃棄物削減について****【良かったとこと】**

成形材料は最低購入量が25kgだが使用する量は数kgであることが多く、不要な材料は捨てられていた。ECサイトでの販売は徐々に販売量が増えてきており、廃棄物削減と材料の活用ができていると感じている。

廃プラの量を減らすために粉碎機を導入した。廃プラ再利用をお客様に交渉して認められた製品に対しては再生プラを使用することで廃棄物量を減らす事が出来ている。

**【課題、改善点】**

廃プラの削減については、既存製品のみを使用しているが今後は廃プラを使用した製品を販売したい。また、需要がどのくらい見込めるか調べたうえで、再生プラの販売も行っていきたい。

**◆水道使用量について****【良かったとこと】**

毎日メーターを確認することで、水の使用量で変化点が見極められており、無駄に使用されていた際に原因究明がすぐにできていた。原因は成形機の冷却水を過剰に流していたことだった。

原因究明までのスピードが速く、同様の無駄な仕様を防ぐことができていたと感じている。

**【課題、改善点】**

成形機の冷却水に使用される水道に関しては、作業員の経験、技術力、問題意識の違いにより無駄に使われていることが課題だと感じている。

作業員への教育を的確に行い、資源の無駄な使用しない意識付けをしていく必要があると感じた。

**総括**

今までは再生プラスチックの仕様を敬遠するお客様が多かったが、昨今の環境問題や材料費の高騰によって説明の仕方でも理解していただけるお客様が増えてきている。

無駄に捨てられていた材料などは、どうすれば廃棄物にならずに再利用できるかを今後も考えていきたい。

技術や課題発見能力、問題可決能力の差によって環境に与える負荷の割合が異なることが今年度は発生した。スキルと意識を上げることは効率的な業務遂行のみならず、環境負荷低減にもつながるため社員教育は今後もしっかり行っていきたい。

以上